

月刊酒文化

春期特別号
2006.3

【巻頭研究】

明治初年の三井と清酒／加藤慶一郎 1
——蔵元・問屋として

【さけ放談】 Yes or No —ビール類の酒税統一—— 8

【資料】 山田錦を支える人たち 12
——酒米づくりの現場から

【インタビュー】 お酒のガイド役の楽しみとストレス／友田晶子 16

【ほろ酔い紀行】 焼酎を訪ねて九州山間地に行く 28
——人吉盆地と高千穂

【連載エッセイ】 ワールド酒フロント 22

【エッセイ】 酒づくりの心象風景 10
日本酒のうつわ 20
酔いの演 21
一杯の思い出 26

酒文化短信・ライブラリー 34

お酒のガイド役の楽しみとストレス

友田晶子

「詳しい人に聞く」はもともと確かで早い調べ方。これをネットで展開しているのが『All About (オールアバウト)』。このサイトで酒のガイド役を務める友田晶子さんに反響をお聞きした。

今話題のガイドサイト

『All About』

「その道のプロが、あなたをガイド」をキャッチフレーズにしたインターネットのガイドサイト『All About』をご存じでしょうか。

『All About』は、住宅・インテリア、グルメ・クッキング、クルマ・バイク、旅行・レジャー、健康・医療、マナーなど一七ジャンルに、さらにその中を二七〇～三八〇テーマに細分化。テーマそれぞれに一人の「その道のプロ」のガイドがつき、ガイドが顔とプロフィールを公開したうえで、厳選した情報を記事・リンク集・メールマガジンを通して紹介してくれる生活情報メディアサイトです。

中立の見地から情報を流す点が、ネットショッピングモールサイトとは明らかに違う点ではないでしょうか。

純粹に月間一三〇〇万人ものユーザーが訪れるこのサイトは、ネットでは年齢が高めの三〇歳代、特に三七～三八歳の女性読者が多いという特徴があります。これは、「生活を豊かにする」ことをテーマにしたこのサイトが、人生を楽しむ大人に支持されていることの一端を示しています。

一テーマ一ガイド制のメリットを活かして

『All About』のサイトでは、ガイドが取



◆日本酒・焼酎のガイド役を務める友田晶子さん

材し、原稿をまとめて、自身で月三回以上の情報更新、月二回以上のメールマガジンを配信します。ガイドにはかなりの大きな負担と思われませんが、『All About』広報は、「ジャンルごとにプロデューサーを立てており、ガイドとコミュニケーションを取って、ページのつくり方や記事のアイデアなどをサポートしています。ガイドは一人のほうが責

「ニュージーランド」ガイド 片木 友美子
オークランド在住者がお届けする、ネットでビュー
なニュージーランド情報です。

- All Aboutの歩き方
- サイトマップ
- お気に入り追加
- RSS

サイトのきれいなホテル宿泊券、素敵なジュエリープレゼント!

チャンネル INDEX 全380ガイドサイト一覧(新ガイド6名)

生活 ▶ 住宅・インテリア (43) ▶ グルメ・クッキング (26) ▶ ペット (6)
▶ ファッション・ビューティ (95) ▶ ファミリー・ライフスタイル (20)

仕事 ▶ ビジネス・キャリア (99) ▶ 資格・スクール (18)

趣味 ▶ パソコン・デジタル家電 (24) ▶ クルマ・バイク (17) ▶ ゲーム (4)
▶ エンターテインメント (28) ▶ 旅行・レジャー (41) ▶ スポーツ (10)

人生 ▶ マネー (30) ▶ 健康・医療 (14) ▶ 恋愛・結婚 (9)
▶ 妊娠・出産・子供の教育 (16)

PickUp
・10万円から始める、今どきの資産運用
・世田谷で探す、経費かなはまじい
・新入社員で、生活を築く

家族で「うがい」をしよう
冬こそダイエットで美しくやせよう
資産を殖やす情報を知ってゲット!

働く女性の自分磨き 男のライフデザイン
forL forM
ニセスのための上質生活 "50代おとこ"に贈る

DAILY NEWS 01/26 09:00 更新
【最新のニュース】
堀江社長失職 宝塚は全面否
定

◆ 「All About」のトップ画面 <http://allabout.co.jp/>

任が重くなるので、自信を持って記事を書いてもらえ、記事に重みも出ると考えています。それで、ひとつのテーマに一人のガイドという方針は今後も変更するつもりはありません。ただし、読者の増加によってニーズが多様化しますから、テーマは五〇〇くらいいまで増やしていくつもりです」

ガイド制のメリットに関しては、「特にグルメはインターネットの中でも人気のジャンルで、検索サイト、レストランやショップを網羅的に紹介したサイト、口コミサイトなどさまざまなサイトがあります。これ

らとの違いは、『All About』は『誰が発信しているか』に重点を置いている点です。また、グルメは『この人が紹介しているなら試してみよう、行ってみよう』というところで、ガイドにファンが付きやすいジャンルです」

各サイトはガイド自身の個性を存分に活かしており、ガイドの顔とプロフィールをあえて公開していることとあわせて、読者からガイドへの信頼感を高めることに成功しているようです。

プロの活用をコーディネート

今、『All About』では、物販サイトとしてライフスタイル提案型セレクトショップ『All About スタイルストア』を運営しています。このサイトでは、インテリア雑貨、ステーシヨナリー、キッチン・食器、ギフトなど、各分野の「その道のプロ」であるスタイリストが厳選した、こだわりの商品を、その背景やつくった職人の思い入れを紹介しながら販売しています。これについて同社は、

「物販は『All About』の延長線上にはありませんが、『All About』とは別立てと考えています。こちらにも、今後は取り扱う商品やジャンルを増やしていく予定です。」

新規事業として、一月には『All About プロファイル』を立ち上げました。こちらのサ

イトは、事前に『その道のプロ』達を建築家、インテリアデザイナー、リフォームコーディネーターなどのジャンル別にエントリー。各プロは顔写真やプロフィールと共に、事例やコラムを掲載。読者からは質問が受けられるようになっていきます。これらを通して、自分の望みや想いを実現してくれる専門家を見つけるサイトです。

例えば、オリジナルの家を建てたいという想いがあっても、どうすればよいかわかりませんね。そんな時は、このサイトで建築家、建築プロデューサー、インテリアコーディネーターなど、「想い」を叶えるために必要な自分にあつたプロを見つけて相談し、一緒に作っていく……そんなサイトです」

「All About スタイルストア」も「All About プロファイル」も、「生活を豊かにする」「人生を楽しむ人の役に立ちたい」という『All About』の基本姿勢に則った新規事業と位置づけられている。

『All About』の看板ガイド 日本酒・焼酎パートの 友田晶子さん

『All About』のガイドの中でも、確実にファンが付いていて、人気のサイトと言えは日本酒・焼酎。そのガイド役がワインコーディネーターであり、唎酒師、焼酎アドバイザーの友田晶子さんです。パソコンについては

まったくわからないとおっしゃる友田さんが、『All About』でガイドを務めるようになったいきさつを。

「お酒と関わりを持つようになったのは、一九八六年に『アカデミー デュ ヴァン東京校』でワインを習ってからです。元々実家が福井県でレストランをしていたので、いずれ飲食関係に携わりたいとは思っていたのですが、たまたま身内の会社がワインの輸入会社を設立することになり、私も入社してワインの仕事に本格的に携わるようになりました。その後、フランスに渡り、さらにワインを勉強し、ワインアドバイザーの資格を取ったのです。

実は、当時日本人女性がフランスに行つてワインを習うことは珍しいことでしたから、フランス人からいろいろと日本について聞かれました。その時つくづく自分が日本文化を知らないなど感じたのです。日本文化も知らないくせに、フランスの文化を学ぼうなんてお話にならないと……。そこで、日本に帰つてきて、お茶や日本酒を学びました。

ちょうど、日本酒の唎酒師の体系をつくるために、ソムリエたちが日本酒の香味マトリックスに取り掛かっていたときで、誘われて、日本酒サーブス研究会 (SSJ) の設立準備室に入り、お手伝いしながら日本酒を学ぶことができました。焼酎についても同じで、SSJが焼酎アドバイザーを開発するということがその準備を手伝いながら学びました」

日本酒・焼酎ジャンルでガイドを始めるまで

友田晶子さんが『All About』のガイドを始めたのは、『All About』サイトが開設された五年前からです。その当時は振り返つて、「ガイドに応募して、文章力テストなど、二次試験まで受けてガイドとして採用されました。初めは日本酒だけだったのですが、焼酎ブームが来て、焼酎も取り上げるようになりました。

月三回の更新と、月二回のメルマガですからね、終わったと思つたらすぐに次の原稿締め切りが来る感じです。ネタを探して、原稿を書き、サイトへアップする。私の場合はアップする技術的なところを手伝ってくれる方がいて、原稿を書けばサイトにアップしてもらえますのですが、何度途中でやめようと思つたことか……」

ガイドの仕事で一番大変なこと

やはり一番大変なのはネタ探し。「私の場合、ネタ探しには三つのチャネルがあります。まず、自分のプライベートで飲んだり食べたり、出会ったものでピンと来たものを取り上げる。次に、アンテナを持ちなが

ら新聞や雑誌、テレビなどを見ておもしろそうな情報をつかむ。そして最後に、サイトに興味を持つ蔵元や酒販店からの売り込み情報。ただし、同じような情報が何度も掲載されるのを避けるため、内容確認はおこらないようにしています。

これらのネタを原稿にするときは、基本的に自分の好き嫌いの主観で書いています。それが私のサイトのおもしろいところでもあり、悪い点でもあると思います。でも、読まれる方は専門家の批評が欲しいのではなく、ガイドして欲しいのですから、それくらい自分のカラーをぐつと出して、気に入った人だけが見に来てくれれば良いと割り切っています。私のサイトで弱いのは、何といつてもビジ

「おいしいと声に出して飲みたい酒
うまいっとならぬ声に出して飲みたい日本酒30 80年熟成酒スキートピー発見!

「日本酒・焼酎」ガイド:友田晶子 2005年07月31日

■80年熟成日本酒は和歌山で発見!
今年20周年を迎える長期熟成酒研究会が『80年熟成の日本酒』を公開した。
今は休業している和歌山県最古の蔵、帯庄(おびしょ)酒造にあったもので、昭和2年の雑誌に掲載されているところから、製造は昭和元年とみられている。

商品名は『スキートピー』。
なんとこのハイカラなネーミングは、実は輸出向けに製造されたためなのだとか、日本酒らしからぬボトルやラベルも、いわれられてみればなるほどとわかる。また、アル添加技術がなかったこの頃、中身は麹をたっぷり使った純米酒だといふ。さあ、そのお味は一体……。



◆グルメ・クッキングチャンネル「焼酎・日本酒」の記事より
<http://allabout.co.jp/gourmet/sake/>

ユアル。どうしてもきれいな写真が撮れなくて……。『All About』では、私たちがガイドに、写真の撮り方やユーザーが増えるテクニクなどを教えてくれる講座もあるのです。でも、なかなか出席できなくて」

今後取り上げたいこと、 反響のあった記事

これまで人気があったテーマについては。

「あまり日本酒・焼酎に関係がないと、運営側から注意を受けましたが、実は、今まで飛び抜けて反響があった記事は二〇〇三年五月二十八日に更新した『ラクーア（温泉施設）』と、二〇〇三年六月三日に更新した『大江戸温泉物語』の記事です。私が突撃レポートをするスタイルで書かれたもので、私としては『ラクーア』や『大江戸温泉物語』というネタもさることながら、読者はこのような私の視点を活かしたスタイルのレポート記事が読みたいのだなと思いました。

お酒関係でいえば、人気酒販店ものにアクセスが多いですね。例えば二〇〇五年五月三十一日に更新した『長谷川酒店焼酎酒大会ランキング』のような記事です。ほかにも味のマチダヤさんや横浜君嶋屋さんなど、日本酒や焼酎の専門店として知られるお店の記事は今後も書いていきたいと思っています。

また、フレンチやイタリアンで日本酒を本

格的に扱っているレストラン。今までにない斬新なサービスの仕方をしている店なども取り上げたいと思います、情報を探しています」

記事のスタイルは五タイプ

広いようですが、うっかりすると同じような記事になりがちです。

「私の場合、ネタが重ならないように、お酒そのものの紹介、日本酒の石けんなどのグッズ紹介、飲食店の紹介、グラスなどお酒周りの食卓紹介、うまいもん・うまい酒のような旅行ものと、自分の中でカテゴリー分けして書き分けています。

私は個人的に旅行が好きですし、職業柄出張も多いので、地方ものをシリーズとして掲載し、結構アクセスをいただいています。

二〇〇六年一月二日に更新した『死海風呂で毒素出し！ 蔵元直系の割烹旅館』の記事では南房総・安房白浜の旅館を紹介しています。二〇〇五年三月二日に更新した『別所温泉でお燗酒で手打ちそばと温泉堪能』の記事では、信州の別所温泉とお酒・おいしい食べ物を紹介しました。旅行を計画している方々には、お役に立てるページのようです」

『All About』では、ガイドと読者をつなぐ方法として、各種のイベント、いわゆるオフ会も開催しています。

「昨年夏には、八〇〜一〇〇人程で夏の夜に女性だけでお酒を楽しむ会を開催しました。参加費無料ということもあると思いますが、応募者多数のため抽選で参加者を決めさせていただきました。実際にガイドの私に聞けるので、質問も多く、読者の方がとても身近に感じられました。

オークションを開催したこともあります。これは、蔵元と一緒にできたてのお酒を楽しむ権利のオークションでしたが、こちらとても盛況でした」

サイトのガイドを始めた五年前と比べて。

「最近では女性の読者が増えてきたように思いますし、シニア向けや女性向け、男性向けなどのコーナーも増えて、『All About』全体が雑誌的になってきたように感じます。私も読者からの反響を声援と感じていますから、大変ではありますが、今後もこつこつと続けていきたいと思っています」

（於：酒文化研究所・聞き手／山田聡昭）

【プロフィール】

友田晶子（ともた あきこ）

福井県生まれ。ワインコーディネーター（ソムリエ）／唎酒師／焼酎アドバイザー。一九九七年『ワインアドバイザー全国選手権大会』で女性最高位の三位入賞。田崎真也ワインサロン講師。著書に『いつのまにやらワインが職業』（新潮社刊）などがある。